日本臨床工学技士会の活動

日本臨床工学技士会の「医療安全全国共同行動」への取り組み

（社）日本臨床工学技士会
安全対策委員（100K担当）　高木政雄

（社）日本臨床工学技士会は、平成2（1990）年2月に、人の命に直結した各種の生命維持管理装置の操作と保守点検を担う臨床工学技士の専門医療職の団体として発足しております。

現代医療には医療機器が不可欠であり、特に高度先進医療においてはさらに医療機器の果たす役割は大きいものがあり、高度な生命維持管理装置を頂点とした各種医療機器を駆使した治療の質の向上と安全確保を推進することが、社会的使命と考えております。

当会は、医療安全対策の事業として、職種や立場の壁を超え、医療を担う病院と医療を支えるさまざまな団体・学会・行政・地域社会が一致協力して医療事故の防止に総力をあげて取り組むべきとした「医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”」の趣旨に賛同させていただき、呼びかけ団体としてこのキャンペーンに参画して参りました。

具体的な、行動目標としては、「医療機器の安全な操作と管理」を挙げさせていただき、医療現場で、使用頻度も高く、安全性を担保すべき2種類の機器「輸液ポンプと人工呼吸器」に関わる有害事象とこれに起因する死亡を防ぐために、輸液ポンプ・シリンジポンプと人工呼吸器の安全管理を推進しております。

キャンペーン開始以来、会誌、会報、ホームページに関係記事を掲載し、学術大会においては進捗状況を含めた特別講演などを企画し、啓蒙・広報に努めております。

また、平成22年度の重点施策方針にも、医療安全全国共同行動（100K）を継続するとともに、平成 22 年度の「第 2 期事業企画」を他関係団体と詰め、実行を推進することと致しております。

ぜひ、多くの医療機関のご参加をお願いいたします。